

JAL闘争を支える京都の会News No.104

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

今、JALの職場では

「時間がない」「人が足りない」「部 品が足りない」 — 空の安全を —

2024年4月23日、大手筋商店街（京都市伏見区）で、JAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ、「きょうとユニオン」、「なかまユニオン」、「自立労連」、「合同繊維労組」「連帯労組関生支部」、「憲法を生かす京都の会」の皆さんなど、計15人にご参加いただきました。今回の宣伝行動にはJAL客乗争議団の神瀬麻里子さんが参加しました。

神瀬さんは以下のように訴えました。「2010年12月31日解雇になった165名は、会社が言うには高年齢と過去の病歴、その2つを理由に解雇した、そのように会社は説明しているが、この闘いが進むにつれて、本当の理由は私たち165名が安全のためモノを言い、ダメなものにはダメ、安全でないものには安全でないとJALの経営に言ってきたからだ、ということがわかってきた。パイロットも客室乗務員も20年、30年を越えるベテランばかりであった。航空会社にとってもベテラン社員は大切な宝物だと思う。長い時間かかってノウハウを身につけ、仲間たちとのコミュニケーションを大事にし、自分がやらなければならないことは何か、安全のためにはどんな選択をすれば良いのかを身につけた客室乗務員・



パイロット165名をJAL日本航空は無残にも解雇した。しかし、会社の経営破綻を招いたのは社員だろうか。決してそうではない。JALはたくさんの放漫経営をおこなっていた。たくさんの先物取引にムダな金を投じた。様々な損害をもたらした経営者はそのことに一切責任を取っていない。日米貿易摩擦でボーイング747を113機も買って、アリゾナの砂漠に4機も寝かせていた。そんな航空会社は世界中でJALだけである。そんな放漫経営をしながら、2010年1月に経営破綻したが、その責任を過去の経営者は誰ひとり取らず、働く者に押し付けた、それがこの解雇問題の根本にある。私たち客室乗務員の最大の任務は保安要員である。お客様をいったん機内にお乗せしてドアを閉め、空港を飛び立つとまったく人の手を借りることはできない。警察も消防車も救急車も呼ぶことができない。その役目

を果たすのが客室乗務員である。今年の始め1月2日に羽田で大きな衝突事故があった。幸いJALの方には大きな人的被害はなかったが、海上保安庁の皆様5人が犠牲になったという本当に悲しい事故である。あの映像を見てもおわかりのように客室乗務員は何かあるとすべて自分たちの責任で行動する。緊急事態があると私たちは飛行機の中にあるものを使ってお客様の安全を確保して脱出してもらう。インターホン、そしてインターホンがダメならアナウンス、アナウンスがダメなら緊急脱出のためのシステムを使って自分の担当するドアが安全なのか、そこから滑り台を出しても無事にお客様を救出できるのか判断してドアを開ける。事故機ではその3つのシステムが全て壊れて使えなかったにもかかわらず、担当ドアを開けるかどうかの判断を行い、その一方でお客様のパニックコントロールを行った。事故



機のエアバスA350には8つのドアがあるが、各ドアにCA1名以上が配置されていた。しかしJALにはCA数がドア数を下回るボーイング787などの機材がある。私たちは会社に各ドアに客室乗務員1人が必要であると長年言い続けてきたが、その願いは今も受け入れられていない。この4月1日からJAL日本航空の社長は客室乗務員出身の女性になったということで話題になっているが、もし私が社長になったら一番にやることは各ドアに客室乗務員を1名配置することである。毎日この京都の上もJALの飛行機が飛んでいるが、JALの飛行機を運航するために働いている職場は、時間がない、人が足りない、部品が足りない、そんな声で毎日仕事をしている。安全のことを言う前に1兆円の内部留保をつくれと稲盛和夫さんが言った。稲盛和夫さんはあの解雇は必要なかったという発言をしているし、解雇した方にはいつかお詫びをしたい、お返しがしたい、そのように発言されていたが、それは実現することなく稲盛和夫さんはお亡くなりになった。私たちは解雇になってから13年と4カ月、必死でこの問題に取り組んできた。こんな解雇がまかり通れば、

こんな大儲けをしながらの解雇を許せば、誰ひとり安心して働けなくなる。そして労働組合に結集していた仲間を無残にも切る、こんなことをしてはモノを言えない社会になってしまうだけでなく、安全が保てなくなってしまう。私たちは自分たちだけがJALに戻れば良いとはまったく考えていない。私も解雇になってたくさんの闘う仲間と知り合った。会社の中でおこなわれている賃金未払い、残業代未払い、そしてパワーハラスメント、セクシャルハラスメント、いろんなことと今労働者は闘っている。組合叩きも本当にひどい。しかし去年の夏おこなわれた東京のデパートでのストライキのように、人々の怒りは頂点に達していて、労働組合に結集して闘う仲間も増えている。8時間働けば普通に暮らせる世の中にするためにも、解雇のない世の中にするためにも、私たちJAL争議団と京都で働く仲間はここ伏見でビラ配りをさせていただいている。ぜひ私たちの運動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。」と訴えました。



全京都統一メーデー会場の壇上で紹介されるJHU神瀬さん 2024.5.1

次回 宣伝行動 (呼びかけ JAL闘争を支える京都の会)
5月28日(火) 午後2時~3時 伏見・大手筋商店街